

松尾 馬奮（まつお・ばふん）

1、プロフィール

大正 15 年三戸川柳吟社創設、三戸川柳社の礎石を築く。戦後、青森県川柳社に加盟、建設的な意見で県柳界を刺激、中央柳界からも陸奥の快翁馬奮様として親しまれた。

<生没>

1886(明治 19)年3月 15 日 ~ 1965(昭和 40)年9月 19 日

<代表作>

川柳句集『翁』『命の値だん』『泥足』

<青森との関わり>

三戸村(現三戸町)に生まれる。県内の銀行、信用組合等に勤務。地元川柳社を興し、郷里を活動の舞台とする。

2、作家解説

本名庄次郎。明治 33 年に三戸尋常小学校卒業。36 年三戸銀行に入社、以後金融機関が生涯の仕事となる。大正元年三戸銀行副支配人となるが、この頃より川柳に関心を持ち、柳号に馬奮というペンネームを用い実作に励む。そして大正初年の「東奥日報」における東奥柳壇の投句者として注目された。

大正 15 年に長谷川霜鳥と三戸川柳吟社を創設、同人に岡田兎、泉山牛耳、工藤凡平、安宅銀一、小林洋二、白木虎兎等がいた。この頃県外には投句せず、黒石の「みちのく」にもつばら投句していた。昭和 12 年三戸銀行が第 59 銀行と合併、15 年に馬奮は第 59 銀行野辺地支店に転勤、支店長となる。18 年第 59 銀行は青森銀行と改称されるが、21 年に同支店長で退職、その間やや衰退を見せていた野辺地川柳社の再興に努力した。昭和 29 年青森県川柳社に加盟、小林不浪人、成田我洲、後藤蝶五郎亡き後は彦左衛門と自称し、県柳界の隆盛に貢献した。

36年に喜寿を記念して「松尾馬奮喜寿祝賀全国川柳大会」が三戸町において開催されているが、北海道、東京、兵庫県等からも参会、150名余の柳人が会して盛会を極めた。氏の柳人としての実力、交遊の広さ、そして人徳のしからしめるところであろう。なお、同年句集『翁』も刊行している。また11月3日には、これまでの本県川流界の発展に寄与した功績でもって、第3回青森県文化賞が授与されている。川柳人としては初めてである。38年には県褒賞受賞、40年6月には三戸町の城山公園に「叱っては見たが子供は俺に似る」の句碑が建立された。それから3ヵ月後の9月19日に他界、「たったいままでの命の有難味」が辞世。死後、句集『命の値だん』(41年9月)『泥足』(42年12月・自筆句集)が刊行されている。

青森銀行退職後は地元の信用組合の専務理事を務めるなど、金融界に尽くした功績も大きく、また、善行者としてもよく知られており、表彰されている。

3、資料紹介

○馬奮句集『泥足』

図書

1967(昭和42)年12月

190mm×135mm

馬奮3周忌を機に、生前手習いのつもりで和紙へ書いていた句帖を複製、それに川上三太郎の序及びゆかりの人々の文章等を掲載し1冊にまとめたもの。三太郎選句のものが相当収録されており、リアリズムを基調とした人間味あふれる句が多い。和綴本。